

2024年7月1日

神戸学園都市 YMCA こども園 7月えんだより

7月の聖句「隣人を自分のように愛しなさい。」

マルコによる福音書 12章31節

本格的な梅雨の真ただ中、前半は雨が多くジメジメした毎日が続きましたが、梅雨の後半は…。梅雨と言えば「湿気が多い」「洗濯物が乾かない」「カビが心配。」「食中毒も。」とマイナスのイメージの言葉が多く聞こえてきます。でも、これは大人の発想。子どもたちは「大好きな長靴が履ける!」「水たまりや泥んこも楽しい!」と、この梅雨の雨をも楽しんでしまう「楽しさ探しの天才」です。この天才ぶりを思いきり発揮できるように子どもたちを応援しつつ、一緒に「梅雨」も楽しめればと思います。

先日、あるテレビの番組で、ベビーカーごと池に落ちた子どもを見ず知らずの男性二人に助けてもらったという話が取り上げられていました。この男性二人は「当たり前のことをしただけ。」とその場を去ったそうですが、どうしてもお礼がしたかったこどものご両親は、マスコミの力も借りて二人を探し出し、感謝の気持ちを伝えたという内容でした。そして、その話の中で子どもを助けた男性の一人が、「なぜこのような行動ができたのか。」との問いに、「自分が若い頃、雨の中で車が動かなくなった時に一人の老人が助けてくれた。その時にお礼をしようとしたが、その老人から『自分へのお礼はいらないから、困った人がいたら助けてあげて。』と言われた。それ以来、困った人がいると助けるようにしている。『恩返し』はできないけど『恩送り』を。」というようなお話をされていました。この『恩送り』という言葉、以前にも耳にしたことがありました。それは、納豆屋の跡を継いだものの商売がうまくいかなかったひとりの若者がある豆腐屋の主人に助けられたことで何とか商売が軌道に乗った。そして、その豆腐店の主人も過去に人からの『恩』を受けて今があると。その『恩』が豆腐屋さんから納豆屋さんへ、『恩送り』されたというもので心が温くなりました。

一方で、私たちの目に、耳に飛び込んでくる『無差別殺傷事件』のニュース。その加害者の多くが、社会からの疎外感の中で自暴自棄になって犯行に及んでしまっているようです。それぞれに複雑な事情はあるかもしれませんが、加害者となった人々が事件を起こす前にこの『恩送り』でつながることができていれば、疎外感や自暴自棄といったところに行きつかず、自分を、そして他人をも大切にして加害者となることはなかったのでは・・・と思います。

神さまは、『恩』より更に大きな『愛』を私たちに送ってくださっています。この神様の『愛』を自分のものとしてしっかりと受け取り、そして、次の人へと送っていく。この『愛送り』の輪を一人でも多くの人がとに広げることができるように、子どもたちや保護者の皆様、地域の方々、職員と共に歩んでいきたいと思っています。

7月	乳児（0,1,2歳児）	幼児（3,4,5歳児）
月主題	きもちいいね／ぞんぶんに	ここちよく
月の願い	*保育者の祈りや讃美歌に親しむ。 *やりたいことを存分に楽しみ、そばにいる友だちの存在に気づき共感する。 *砂や泥、水に触れ、その感触に興味を示す。	*賛美することや祈ることの心地良さや喜びを知る。 *自分の思いを表現しようとする。又思いが通らないことを経験したり、共感され安心したりする。 *水、泥遊び等を思いきり楽しみ、気持ちよさを感じる。
讃美歌	「 どんどこどんどこ 」 こども改 106	「 うたいましょう 」 こども改 126